

有明海の魚類に関する最近の調査結果

山口 敦子

(1) 有明海中央部における試験操業調査

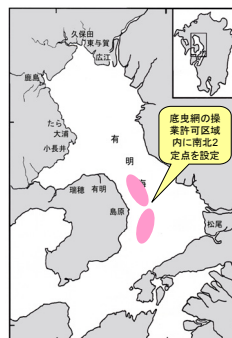
⇒ 有明海中央部における底生生物の種組成
(その季節変化と短期的な変動傾向)

(2) 有明海の優占魚種について

- ① シログチ... 生物学的特性と資源減少要因
- ② エイ類... 有明海にはエイ類が豊富
二枚貝類減少との因果関係

(1) 有明海中央部における試験操業調査結果

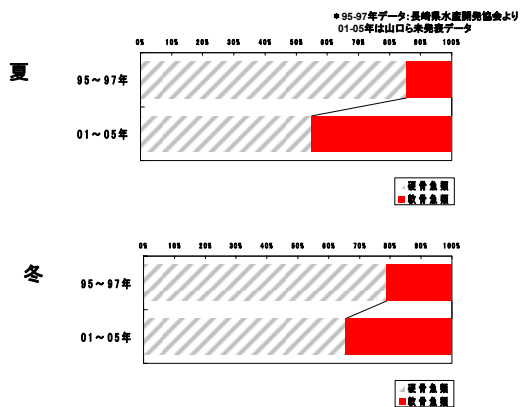
目的: 有明海中央部(魚類漁業の中心的海域)における底生生物の種組成とその季節変化、群集構造の解明など。



- ◆ 2001年～05年、底曳網、島原沖(水深40～60m)
- ◆ 2時間/1曳網、船速2ノット
- ◆ 原則として各季節(4回/年、5月～8月、11月～2月の間の大潮)
- ◆ 全漁獲物を冷蔵して研究室に持ち帰り、全個体の同定と生物学的測定(体長、体重など)
- ◆ 種別の個体数と重量を解析
- ◆ 5年間の短期的な変動を調査
- ◆ 胃内容物調査



有明海の軟骨魚類は過去に比べて増加傾向



東京湾との比較

- ◆ 東京湾では干潟域で60種(加納ら2000)
南部海域で83種(奥井・清水2002)
⇒ 有明海の方が種数が多い。湾奥で2倍、中央部で1.5倍

- ◆ 東京湾で行われた試験操業による調査(堀口2005)
1977年～1995年、2003年～2004年
95年までの優占種

シヤコ、マコガレイ、ハタタテメリ
03年～04年
アカエイ、ホンサメ、スズキ

- ⇒ 板鰐類の増加を指摘
77年～95年: 全魚類個体数の0.3%
03年～04年: 7.6%に増加

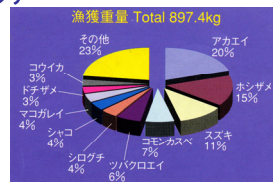


図2 漁獲個体数、重量の組成比 (2002～2004年)

堀口: 国立環境研究所ニュース(2005)より

(2) 有明海の優占魚種について

① シログチ...

その生物学的特徴と資源減少要因



シログチ

- ◆ 有明海中央部で最優占種(重量・個体数とも)
- ◆ 漁獲量が多く、水産上重要種
- ◆ 有明海+橋湾に独立した系群
- ◆ 生態に関する研究例はない
- ◆ 近年の資源減少が深刻な種
- ◆ 有明海で代表的な再生産戦略を持つ

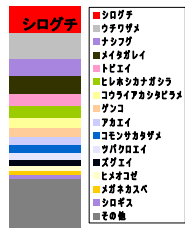


図 試験底曳網調査一曳網当たりの平均漁獲量

長崎県(有明海とその周辺海域)におけるニベ・グチ類の漁獲量

